

1. 実施内容

6月下旬～ 8月25日	地域生活支援センターあーすとコラボ。劇「たったひとつのむかしばなし」練習。
8月26日	あーす祭りでの劇「たったひとつのむかしばなし」本番。地域生活支援センターあーすにて。
5月下旬 ～ 11月11日	「もっとウカツに助け人！」練習
11月12日	第7回定例公演「もっとウカツに助け人！」本番。サーティーホール多目的小ホールにて。

2. 事業の報告

計画した事業

(A) 精神障害の方に劇の楽しさを知ってもらおう! 生活支援センターあーすとコラボして、利用者の方と一緒に劇を作り公演する。ワークショップをしつつ話し合い、それを元に台本を作り、演劇の練習、そして8月下旬の「あーすまつり」で本番を上演。



(B) 第7回定例公演『もっとウカツに助け人!』
JAZZ バンド「ファニーフェイスオーケストラ」とコラボして、サーティーホールで認知症のグループホームを舞台にした演劇の公演をし、市民に身近な福祉の視点を感じてもらう。



計画時の期待する効果

① 演劇の楽しさと身近な福祉!

精神障害のある方に、演劇の練習をすることで、自己表現の一つの方法として演劇の手法を知ってもらうこと、発表の機会を持つことで自信につながることを目指す。また、『演劇ワークショップ』のスタイルを構築、今後、小学校、地域の高齢者、職場などに発展できるようにする。

② サーティーホールの定例公演で、身近に福祉の視点を。

認知症について知ってもらう。観客一人一人が身近な相手に福祉的な関わりができることを知ってもらう。

結果

(A) 劇の内容

- ① なじみのある昔話を組み合わせて、出演者全員が輝けるような脚本を作った。また、役者以外にも、背景を描く、小道具を作る、練習を見るなど、いろんな役割を担ってもらえるように工夫。
- ② 認知症のグループホームにうっかり入ってしまった泥棒が、ヘルパーと間違われて頼りにされるうちに、自分の役立つ居場所を見つけるストーリー。サブストーリーで4人の認知症の高齢者の半生を描いた。

(B) 集客数

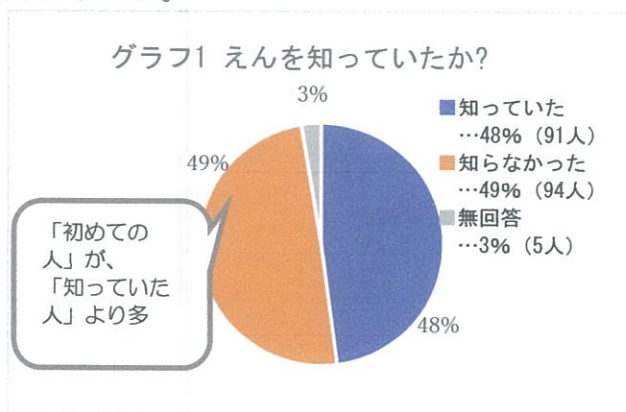
- ① 約40名
- ② 約350名

(C) 計画時の期待する効果と照らしてどうだったか

- ① 利用者さんとスタッフさんの両方に劇を作る楽しさと達成感を感じてもらえ、「またしたい」と言ってもらえた。この劇がきっかけで外出をほとんどしない利用者が②の定例公演を観に来てくれたり、女性の利用者さんの保護者の方が「お化粧した娘を見たのは久しぶり」と喜んでくれたり、ほとんどの参加者の方から「やってよかった」という感想を聞いた。ワークショップも実施したが、やはり本番の経験が印象的だったと思われる。初めての企画で心配だったが、結果的には計画時の予想以上の成功となった。

- ② まず広報が成功した。
小中学校へのポスター掲示に加え、広報だいたうに大きく掲載されたこともあり、過去最高の観客数になった。

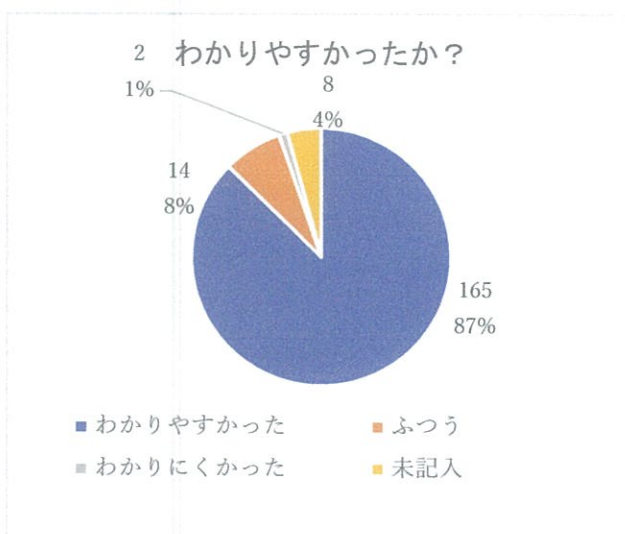
また、アンケート結果からはこれまでえんを知らなかった人が知っていた人を初めて上回った。



さらに、劇の内容への感想も大好評だった。認知症の症状や対応、理解の仕方を盛り込んだ劇だったものの、「わかりやすい」が87%をしめた。

以下アンケートの抜粋。「こんなに完成度高いなんてびっくりです。母が認知症なので、ウルウルです！」

「子供さんの表情が豊かで、キラキラ輝いていました。私の子供も入ってほしいと思いました。」
「ファニーフェイスオーケストラとのコラボ、良かったです。」
「初めて劇というものを観ました。とても良かったです。又来たいです。がんばっている方々のエネルギーをもらえて明日からがんばろうと思いました。」
「認知症のテーマの枠を超えて、どんな自分でも今生きている事への喜びと感謝を感じました。ほんとにほんとに素晴らしかったです。涙が止まりませんでした。大切な家族にとっても会いたくなりました。」



みなさん、ありがとうございました！